

4-4 東海地方の微小地震の分布(1978年11月11日～1979年5月10日)

Distribution of Microearthquakes in Tokai District (November 11, 1978-May 10, 1979)

名古屋大学理学部
School of Science, Nagoya University

前報1)にひき続いて1978年11月11日より1979年5月10日まで6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

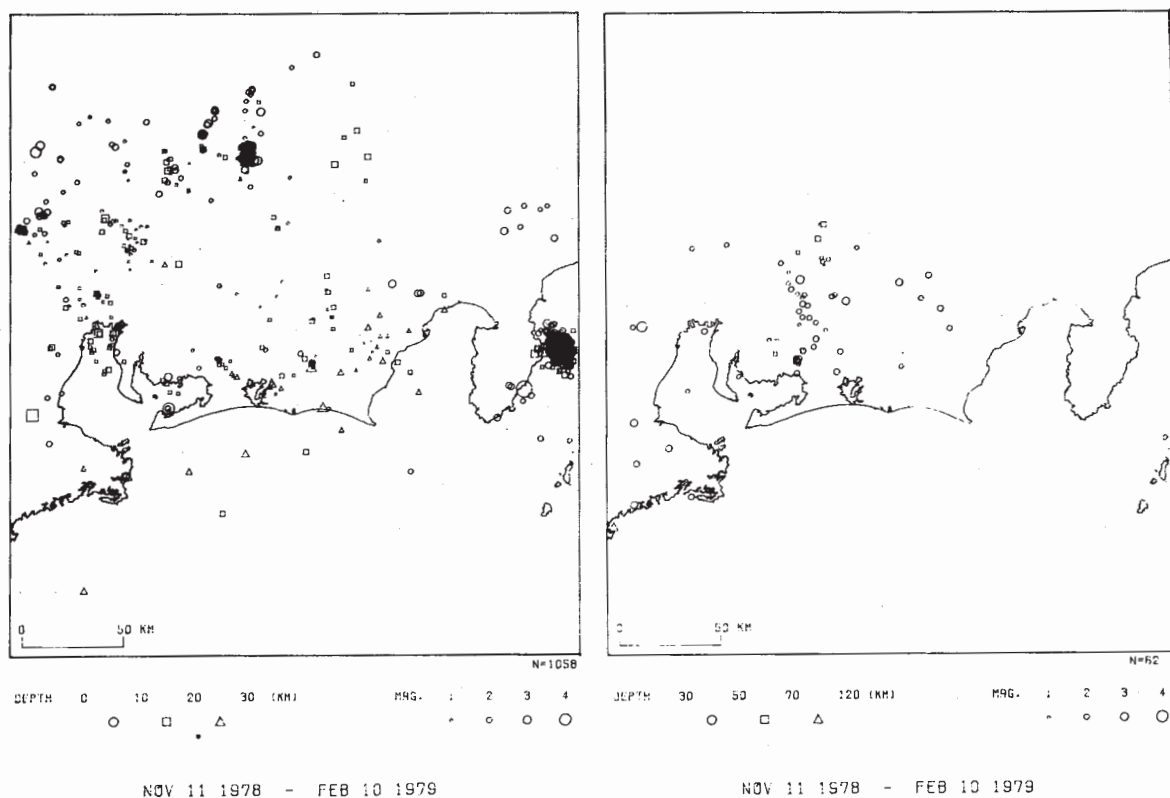
第1図は1978年11月11日より1979年2月10日までの3ヶ月間、第2図は1979年2月11日より5月10日までの3ヶ月間に、名古屋大学理学部の地震観測テレメータ網によって観測された微小地震の震央を深さ別に示したものである。

この期間における地震活動の主な特徴は以下のようである。

- (1) 御嶽南部の地震活動はこの6ヶ月間を通じてほぼ定常的に活動状態が継続している。活動域にも変化はなく、特に活動域の南半分の地域が依然として活発である。
- (2) 養老、柳ヶ瀬両断層付近の活動もかなり活発である。根尾谷断層付近の活動はこの10ヶ月間はかなり集中的活動がみられ、1979年3月1日にはマグニチュード3.5程度の有感地震があり、数十個程度の余震も観測された。
- (3) 1979年3月2日に塩尻市付近にマグニチュード3.5程度の地震があり、余震もみられたが、この付近は従来あまり活動のなかった地域である。その後はすぐに平静になっている。
- (4) 静岡県西部および駿河湾南部の地震活動に大きな変化はみられないが、伊豆半島の特に伊東沖において、1978年11月下旬より12月上旬にかけて非常に多くの地震が群発した。

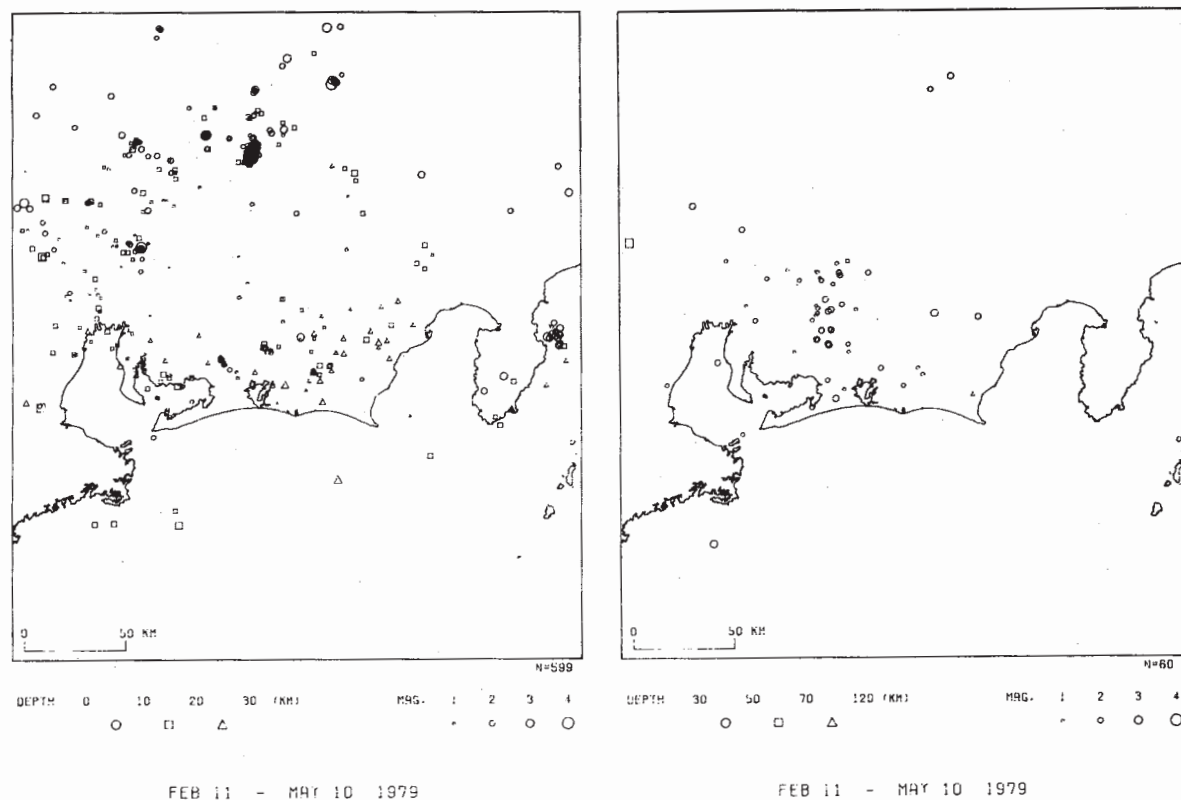
参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布（1978年5月11月～1978年11月10日），連絡会報 21（1979），107 - 109.



第1図 微小地震の分布 (1978年11月11日～1979年2月10日)

Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (Nov. 11, 1978–Feb. 10, 1979)



第2図 微小地震の分布 (1979年2月11日～1979年5月10日)

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (Feb. 11, 1979–May 10, 1979)